ゾーニングとは？

アプローチや庭などのスペースのとり方、あるいは駐車スペースやサービスヤードなどの位置と広さを大まかに決めていく作業を「ゾーニング」といいます。敷地の高低差、隣地や道路との関係などを配慮しながら、さまざまな条件を検討することが大切です。

①メインガーデン

リビングやダイニングから続く庭のスペースは、半戸外空間〔中間領域〕として、デッキやテラス等をつけて実用スペースとして活用するか、見て楽しむ観賞用の庭にするのか。ライフスタイルやご希望にあわせて決めていきます。

②サービスヤード

屋外での家事作業の場となるスペースです。作業内容にあわせて、広さや日照、動線などを検討し、使いやすい空間にしましょう。

③アプローチ

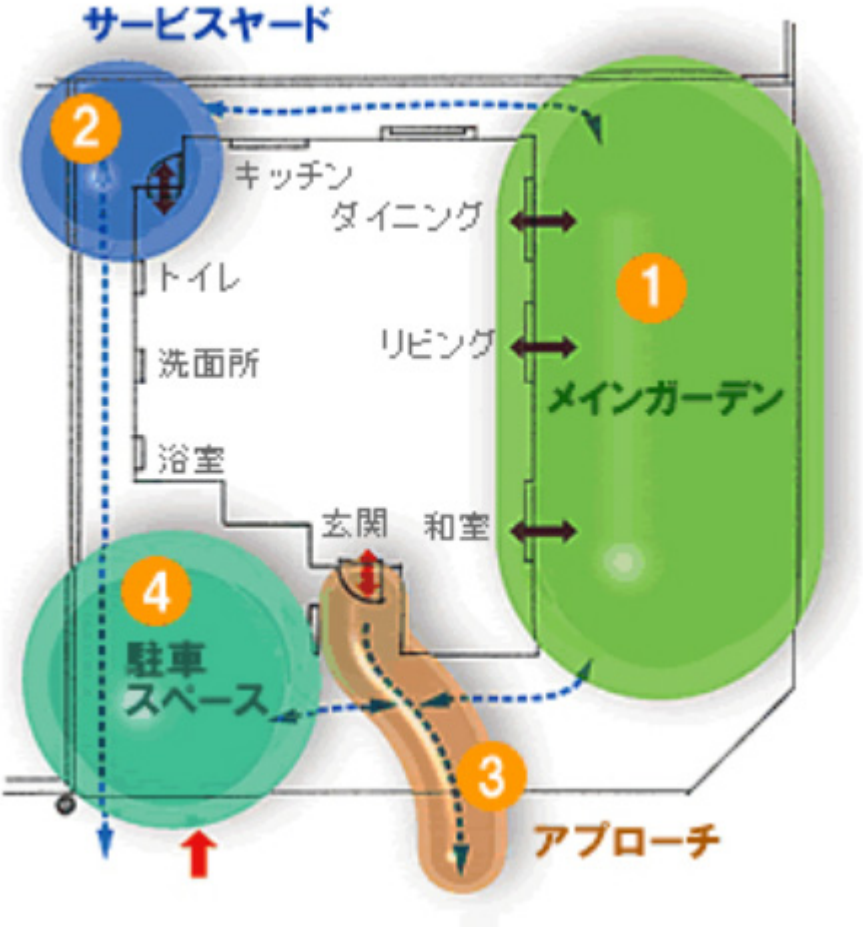
道路に面した門から玄関までの通路とその周辺をアプローチと呼びます。とくに門は、あなたの家の第一印象を決める重要なポイントになります。

④駐車スペース

クルマが出入りする道路の幅員や駐車台数によって決まります。アプローチやサービスヤードへのスムーズな動線のつながりも考慮してください。

⑤その他の庭

建物や塀で囲まれた庭を中庭、比較的狭いものを坪庭と呼びます。主に室内から眺める庭をさします。



ゾーニングの手順

ゾーニングは以下の手順で考えていきましょう

STEP１

道路や隣地との関係をチェックします。
プライバシー確保の必要性に応じて、道路側と隣地側に目隠しの仕切りを根討します。
また道路側には、街並みとの調和や景観にも配慮が必要です。

STEP2

駐車スペースの位置や広さ、アプローチのとり方を決めます。
前面道路の状況や敷地と道路の高低差を考慮します。

STEP３

建物の配置や間取りとの関係から、庭の使い方を決めます。
メインガーデンやプライベートガーデン、中庭や坪庭、サービスヤードなど、性格の違う空間を複数設けるとよいでしょう。

STEP４

ソーン間の動線のつながりをチェックます。
それぞれのソーンが接する部分では、動線や視線を連続させるのか、いったん遮るのかなどを想定します。

＜ゾーニングするときのポイント＞

機能的にスペースを割り当てるだけでなく、各ゾーン間のつながりを工夫したりイメージを演出したりすることで、住まい全体の使い勝手や景観がよくなるケースが多く見られます。
とくにアプローチや駐車スペースは、外部からよく目立ち、その家の印象を左右します。
多少、ゆとりのある大きさで考えておくと、あとからデザインなどを工夫することができます。

＜どんな事らしがしたいか？でゾーニングは決まる＞

庭、駐車スペース、サービスヤードなどの使い方やスペースのとり方には、いろいろなパターンがあります。
どのパターンを選ぶかは、あなたのご家庭のライフスタイル、家族それぞれの趣味によって変わってきます。どんな暮らしがしたいかを考えてプランを進めましょう。

ゾーニングの事例（その１）

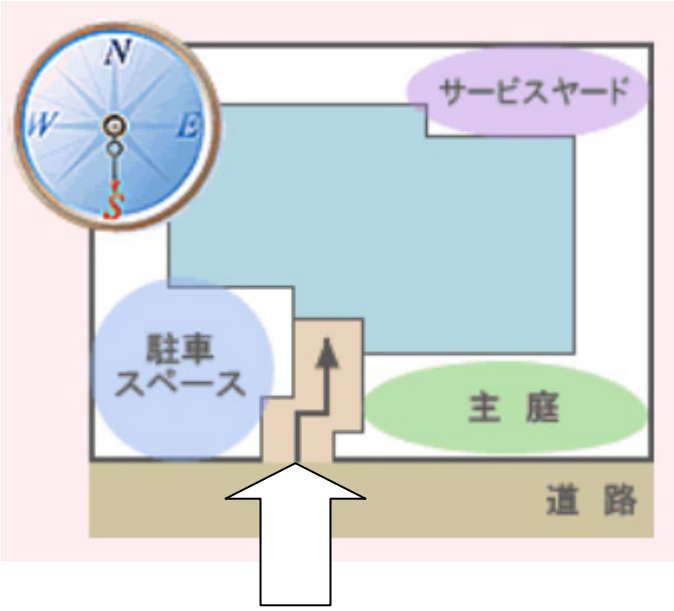
南からアプローチする場合のゾーニング

●南入りの特徴

道路から庭のプライバシーを守るための工夫が必要です。アプローチが庭を分断しがちなので注意しましょう。

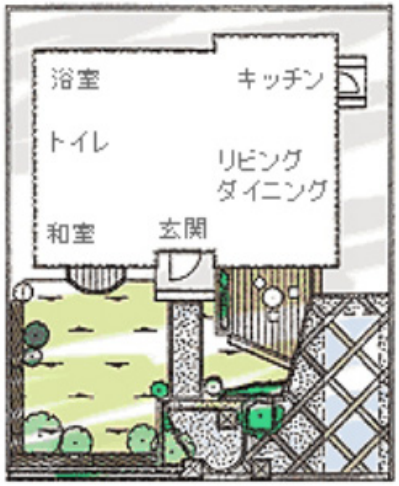
●チェック

駐車スペースと、建物や居室の出入口の関係はスムーズな動線となっていますか。また、ゆとりある心地よいアプローチとファサード空間が演出されているでしょうか。



想定されるファサード

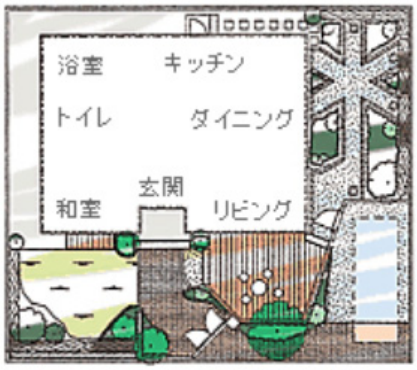
オープンスタイル



南入りのオープンスタイルの外構計画では、庭の中でも道路から見せていい部分と、隠したい部分を明確にゾーン分けして考えたいものです。アプローチの動線もストレートは避け、少しでも回り込むように変化をつけ、庭のプライバシーを守りましょう。

ファサードの植栽が、むきのある建物の前景となります。植栽を立体的に構成すれば、雰囲気をさらに盛り上げることができます。

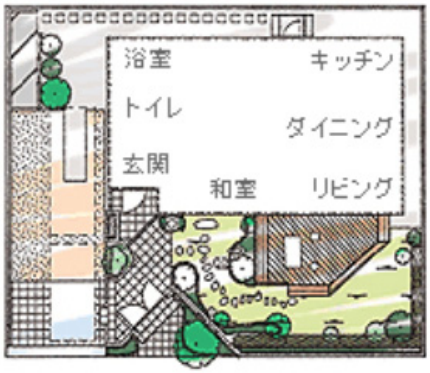
セミクローズドスタイル



ファサードの植栽が、ひきのある建物の前景となります。植栽を立体的に構成すれば、雰囲気をさらに盛里上げることができます。床仕上げのデザインや素材にも工夫したいものです。

駐車スペースとアプローチをつなぐ植栽が、周囲に豊かな緑を提供します。オープンタイプの思想からプランを考えるのも一案です。

クローズドスタイル



南入りのクローズドスタイルの外構計画では、街並みという観点を意識したいです。シンボルツリーはもちろん、アジサイやツツジなどの花濯木でフェンスの足元にも彩りを与え、季節感を演出します。

塀のデザインや色にも気を配りましょう。シンプルなファサードは街並みにも落ちついた印象を与えます。そこでポイントになるのは、雰囲気を和らげ季節感を表現する、門まわりのシンボルツリーです。

ゾーニングの事例（その２）

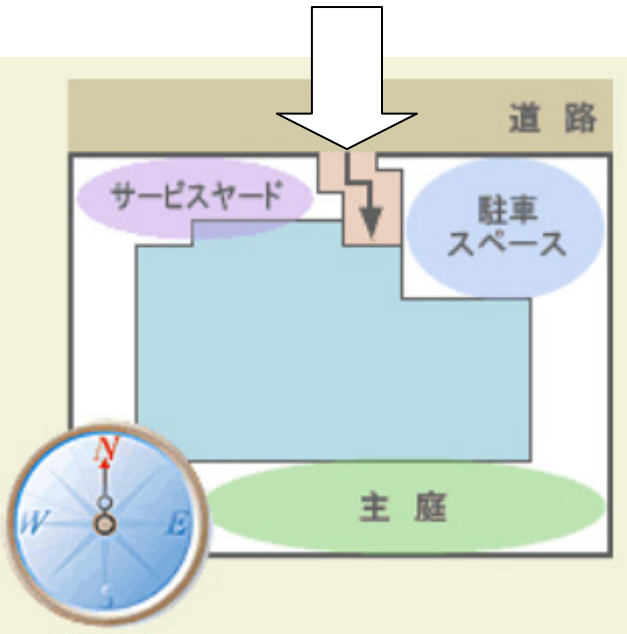
北からアプローチする場合のゾーニング

●北入りの特徴

玄関の正面の門柱位置は外部からの視線が気になり、プライバシーの確保もむずかしくなります。建物の窓位置に注意しましょう。例えば、トイレや浴室の窓がアプローチの正面にくることは、できるだけ避けたいものです。

●チェック

設備機器〔風呂外蓋、温水器など〕は、アプローチの動線上から外すか、目隠しなどで視界からさえぎるような工夫がされていますか。



想定されるファサード

オープンスタイル

北入りのアプローチ空間は、日当たりの関係もあり、日獣寂しくなりがちです。オープンタイプの特性を活かして、緑や花々でアプローチを中心としたファサード全体を明るく彩りたいものです。塀や金物だけのファサードはできるだけ避けましょう。

狭いアプローチスペースでも、花鉢台などを置くと宗班やアクセントが生まれます。また照明を組合せれば、夜もおしゃれな雰囲気が演出できます。

セミクローズドスタイル

クローズドスペース〔閉じたい空間〕を明確にゾーニングした上で、プランを考えたいものです。例えばオープンな駐車スペースと、囲まれたアプローチが対比的に存在するので、植栽を効果的に用いて、街並みとの調和をはかりましょう。

駐車スペースの床、門柱からつながる塀が目立つので、そのデザインや仕上げには注意が必要です。道路際の植栽は、下枝がじゃまにならない種類を選びます。

クローズドスタイル

クローズドスタイルとはいえ、やはりアプローチを玄関の正面にする直線的なプランは避けたいものです。わずかでも回り込む位置に門扉を設け、門柱も道路から40cm ほど後退させて、ゆとりのあるファサードを工夫しましょう。

アプローチのふところに少しでも余裕があれば、シンボルツリーとサブシンボルツリーの間を縫うような動線にすることで、ファサードの雰囲気がとても良くなります。

ゾーニングの事例（その３）

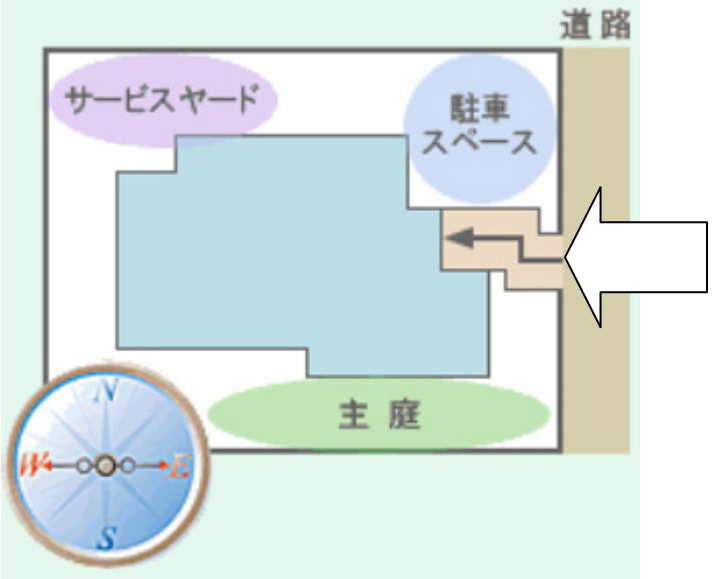
東西からアプローチする場合のゾーニング

●東西入りの特徴

駐車スペースを南にとるか、北にとるかによって、プライバシー確保の度合が異なります。南にとるとプライバシー確保に工夫と費用が必要になりますが、北にとれば比較的簡単に庭のプライバシーを守ることができます。

●チェック

駐車スペースは、建物の間取りと照らし合わせて検討されていますか。また、シンボルツリーを効果的に配したアプローチとなっているでしょうか。



想定されるファサード

オープンスタイル

アプローチと駐車スペースが隣り合っている場合は、アプローチも工夫したいものです。あえて回り込むような動線としたり、シンボルツリーをセンターに配置して両側に駐車スペースとアプローチスペースをとったりすることなどもアイデア次第です。

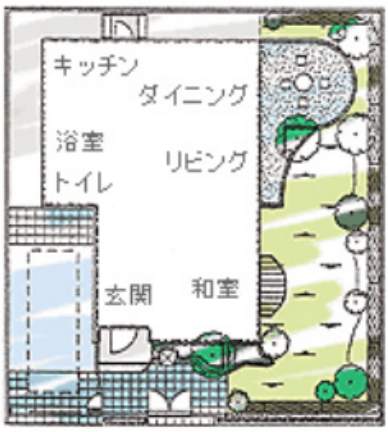
シンボルツリーを駐車スペースとアプローチの間に入れることで、豊かさを感じるファサード空間が演出できます。駐車スペースやアプローチ入口のデザインと仕上げにも気を配りたいものです。

セミクローズドスタイル

アプローチから庭にかけてクローズするプランが、やはり一般的といえます。庭側に駐車スペースをとる場合は、居室の出入口との関係を必ずチェックします。門柱の向きをふることで、街並みに変化を与え、同時にアプローチ空間にもゆとりが生まれます。

シンボルツリーを駐車スペースとアプローチの間に入れることで、豊かさを感じるファサード空間が演出できます。駐車スペースやアプローチ入口のデザインと仕上げにも気を配りたいものです。

クローズドスタイル



クローズドスタイルとはいえ、やはりアプローチを玄関の正面にする直線的なプランは避けたいものです。わずかでも回り込む位置に門扉を設け、門柱も道路から 40cm ほど後退させて、ゆとりのあるファサードを工夫しましょう。

道路から建物までのひき（セットバック）があまりとれない場合は、シンボルツリーを門や塀の内側に入れて植えることで、門から玄関までの動線が誘導しやすくなります。